

教育長様

代表者 校園名:大阪市立本田小学校  
 校園長名:錢本 三千宏 公印  
 電話: 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194  
 申請者 校園名:大阪市立本田小学校  
 職名・名前 校長:錢本 三千宏  
 電話: 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194  
 代表者校園 事務職員名:原田 陽子

## 平成27年度「がんばる先生支援」個人・グループ研究 報告書

## ◇ 平成27年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究について、次のとおり報告します。

1. 研究コース:( )内は、いずれかを○で囲んでください。			
(個人・グループ)研究 (基礎・今日的課題):研究コース			
継続研究:いずれかを○で囲んでください。	継続研究2年目	・	継続研究3年目
2. 研究テーマ			
小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続に関する研究 -----言語活動・表現活動を中心-----			
3. 研究目的:箇条書きで端的に書いてください。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学びの格差」の広がりを抑え、子どもたちが豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続を研究する。</li> <li>○ 保育公開・授業公開・研究発表会を通して、幼稚園・小学校の保護者に子どもの成長の喜びやこれから成長の見通しを持つことができるよう研究成果を公開し、子育てへのインセンティブを高める。</li> <li>○ J. Heckman (2000年ノーベル経済学受賞)の研究や「就学前教育カリキュラム」、学習指導要領を基に、幼小連携の効果的な接続について研究する。</li> <li>○ 幼稚園・小学校の教諭がコラボレーションして表現領域(特に音楽)や言語領域の指導について保育研究・授業研究する。</li> <li>○ 「舞台が人を育てる」という言葉がある。教職員のみならず保護者や地域など多くのステークホルダーに子どもたちの成長を2400人収容の大舞台で公開し、アンケート調査により研究の検証をする。</li> </ul>			
4. 取り組み内容:取り組んだ研究内容を具体的に記載してください。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育資源へのアクセスの格差などが幼児・児童の環境の中で拡大していることをふまえ、就学前教育カリキュラムに基づき幼稚園教育と小学校教育の連携をはかる。そのため、<b>言語活動</b>(主に国語科)・<b>表現活動</b>(主に音楽科)の領域について幼稚園教育要領・小学校学習指導要領・「就学前教育カリキュラム」の文献研究を行い、指導上の要点を整理する。</li> <li>○ 経済産業研究所(RIETI)で講演されたノーベル賞経済学者ジェームズ・ヘックマン教授「能力の創造」についての先行研究を行い、子どもたちの<b>学力向上</b>をめざして「小学校就学後の教育の効率性を決めるのは就学前の教育にある。恵まれない家庭に育ってきた子どもたちの経済状態や生活の質を高めるには、幼少期の教育が大切であること」を確認する。この論文のアブストラクト(要旨)である「<b>すべての能力創造において生産性が高いのが幼児期</b>であること。その能力は相乗的に作用し、将来の能力を高めること。」について、幼稚園・小学校のグループ研究者の共通理解をはかる。</li> <li>○ ジェームズ・ヘックマン教授が「能力の創造」で提唱する社会で成功する性格特性「<b>ピック5</b>」の育成について言語活動(主に国語科)・表現活動(主に音楽科)の領域で保育実践や授業実践を行い、「小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続」について実践的検証を行う。この実践により子どもたちの<b>学力向上</b>という認知面だけでなく、<b>道徳面や社会性</b>など非認知面の成長についても研究する。授業実践については教育関係者や保護者、地域に公開する。「ピック5」とは「精神的安定性」「勤勉性」「経験の開放性」「協調性」「社向性」という社会で成功するための5つの特性である。</li> <li>○ 研究の成果を教職員のみならず、保護者や地域など多くの<b>ステークホルダー</b>に提案するため、幼稚園児と小学校児童が一同に会した発表会をオリックス劇場(収容人員2400人)で行う。子どもたちの確かな成長を確かめる場とともに、幼児期の子どもの保護者には<b>子どもの成長の見通し</b>を持つことができる場にする。この発表会により保護者の<b>子育てのインセンティブ</b>の一層の向上を図る。</li> <li>○ 保護者については子育てへのインセンティブや子どもの成長の見通しについてアンケート調査を行い研究の成果を検証していく。</li> </ul>			
<p>◆ 研究内容のキーワード</p> <p>言語活動、表現活動、すべての能力創造において生産性が高いのが幼児期、「ピック5」、学力向上、道徳面や社会性、ステークホルダー、子どもの成長の見通し、子育てのインセンティブ</p>			

## 5. 検証方法と成果・課題について具体的に記載してください(分析内容の記載)

### ○ 子どもの「生きる力」の向上について

言語領域では2回、表現領域で2回の交流授業・保育、そして全市対象の公開授業・保育を通して、幼稚園の児童については、小学校の先生や児童と触れ合うことにより、小学校の親しみ、安心感、憧れの気持ち、就学への期待感を持ち、すすんで人と関わろうとする力、学びへの意欲を持つことができた。

大勢の参観者の前で、発表会を通じて、努力したことについて多くの人々に認めもらうことができるという体験により、園児・児童の社会的承認の欲求を満たすのみならず、次の学びへのインセンティブを向上させ、学習の期待を膨らませることができた。

幼稚園と小学校の教諭が合同で保育や授業を行うことで指導の一貫性がうまれ、幼稚園でも小学校でも「友だちとなかよくすること(協調性)」「こつこつがんばること(勤勉性)」「わがままをいわないこと(外向性)」「くよくよしないこと(精神的安定性)」「やったことのないことでも挑戦すること(経験の開放性)」が大切なのだということを認識することができ、幼小の一貫した人格形成の重要性を改めて感じることができた。

小学校の児童については園児と交流することにより、自らの成長の振り返りと共に成長した仲間や育ててくれた保護者に感謝する機会になった。

### ○ 保護者の子育てへのインセンティブ向上について

本研究の様子を懇談会で伝えたり、日常の保育・授業を参観してもらったりすることにより、「向上心をもってコツコツ取り組む勤勉性」「積極的に友だちと関わる外向性」「周りの人とのチームワークを大切にする協調性」「好奇心を持って新しいことに取り組むという経験の開放性」「感情をコントロールし穏やかな気持ちになる精神の安定性」という「ビック5」が家庭教育でも大切であることを保護者へ実践的に啓発できた。

### ○ 教職員の指導力向上について

幼稚園と小学校の教員が実践を交流することで、園児と児童の発達の特性を経験することができ、より実践的な幼・小連携ができた。また、国語科・音楽科という教科に特化して交流することで専門性の高い交流ができた。

幼児期から児童期までの言語力、表現力について授業実践を通して交流することにより、特に教育資源へのアクセスが弱い家庭の子どもへの支援の仕方を共通理解することができ、早期からの支援の方法と幼小一貫した支援の方策を研究し、共通理解できる。それにより、いわゆる「しんどい子」を大切にする温かい教育風土を幼・小で形成できつつある。

### ○ 検証結果について

児童への検証については保護者に IKR 評定アンケート(独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した「生きる力」の測定分析ツール)で児童の「生きる力」の成長の成果を測った。その結果、「その場にふさわしい行動ができる」などの適応行動や「自分勝手なわがままを言わない」などの自己規制について成長したという結果が出た。

小学生については児童自身により IKR 評定アンケートを行い「生きる力」の成長の成果を測った。その結果、積極性や思いやりの面で成長したという結果を得られた。

また、幼稚園・小学校の保護者には「小学校で豊かに学び続けるための幼小の効果的な接続に関する研究」についての満足度をアンケート調査した。オリックス劇場での幼小合同の発表会等を参観し、児童教育の大切さと児童から小学校高学年の成長の過程が理解できたという多くの意見をいただいた。

公開保育・公開授業については参観者に保育・授業アンケートを行った。アンケート形式については ICT モデル授業の「教育センターの調査用紙」を使用した。その結果「児童教育の重要性を感じた」「肩の力を抜いて幼小の交流をしてみようと思った」などの項目で「とてもそう思う」という評価を 95% いただいた。

## 6. 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程 平成 27 年 12 月 10 日 場所 本田小学校 参加者数 60 人
平成 28 年 2 月 21 日 場所 オリックス劇場 参加者数 教職員 100 名 保護者 1500 人

上記の内容を原則として A4 版 2 ページで作成し、平成 28 年 2 月 26 日までに大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)